

勉強も遊びもバイトも満喫

「学生生活が充実」9割迫る

充実した学生生活を送っている人は、勉強も遊びもアルバイトもバランスよくやっている——。全国大学生生活協同組合連合会が全国の学生を対象に実施した2011年の調査結果から、そんな傾向が浮かんできた。もうすぐ新学期。さあ、大学へ進学するあなたはどんな新生活を始めますか。

大学生協連は、1963年からほぼ毎年、大学生協がある全国の65～90大学の学生にアンケートをしている。11年は77大学の計1万6885人に、どんな活動が充実した学生生活につながっているかなどを聞いた。

調査結果を、新潟大の浜島幸司・特任准教授と立教大の谷田川ルミ・学術調査員が集計。これによると、大学生生活が「充実している」「まあ充実している」と答えた学生は計87・5%に上った。

就職意識し行動

さらに、どんな要素が充実につながっているかを調べる

(79・5%)よりも充実度が高かった。またアルバイトをしている学生についても、89・3%が充実感を持っており、していない学生を上回った。「就職を意識した行動」も多い方から、公私ともに活動的な学生の方が、充実している傾向が明らかという。



勉強をしっかりと アルバイトもせっせと

将来を意識して 着実に行動

サークル活動も楽しく

大学生協連調査をもとに作製

グラフィック・梅川淳一 / The Asahi Shimbun

充実度を高める要素としては、「学科やクラスの人間関係」「部やサークルの人間関係」も大きいという。この傾向は1年生に特に強く、まず居場所を見つけていることが、充実感につながっているようだ。「授業満足度」の高さも大きく影響しているという。これらの結果を20年余り前と比較すると、就職を意識して勉強などに励もうとする昨今の学生の姿が見て取れる。1989年の調査では、大学生活で何に重点を置いているかの質問に、「豊かな人間関係」との答えが28・2%と突出して多かった。「勉強第一」「何事もほどほどに」などの他の項目はどれも15%前後だった。分析した溝上慎一・京都大准教授は「今は不況の影響で勉強もアルバイトも重視する傾向が見えるが、どれもそれなりに楽しんでいるのが、最近の大学生の特徴だ」と言う。

7%は中途退学

今、器用で活動的に暮らす

学生がいる一方で、せっかく入った大学を途中でやめてしまう学生もいる。昨年、朝日新聞と河合塾が共同で実施した「ひらく 日本の大学」調査では、大学生の退学率は7・7%だった。中には3割に上る大学もあるとされる。学生の中退をいかに防ぐかは、今の大学にとって大きな課題の一つだ。

谷田川さんは「授業の質を高めることは当然だが、入学時などに学生同士の間関係構築を築きやすくする仕掛けも必要。主体的に学ぶ学生の育成が求められるっており、公私にわたる学生支援が学ぶ意欲向上のポイントになる」と指摘している。

(川見能人)